



卒業・進級おめでとう！

能登半島を襲った地震や津波、世界でいまだに続いている戦争という情勢ではありますが、本日修了式を迎えることができました。また、明日は、卒業証書授与式を執り行います。保護者の皆様をはじめご来賓の皆様、地域の皆様たくさんの皆様に、子供たちの成長した姿をご覧いただけますこと大変うれしく思います。この日を迎えられたことに感謝の気持ちしかありません。5年生も参列して卒業生への思いを伝えます。その5年生は、修了式に次のリーダーとして立派に参加しました。

この1年を振り返ってみますと、子供たちは大きく成長しました。それぞれの学年の様子は、これまでもお伝えしてきましたので、全体として成長したことを2つに絞ってお伝えします。

1つ目です。「誰かのために手を使う」ということです。学習活動や、清掃活動、休み時間を含め日常生活のあらゆる場面で、その姿が多く見られるようになりました。お互いに考えを出し合って学ぶ、困っている友達を手伝う、上級生が下級生のお世話をする、友達が喜んでくれそうなことを考えて実行する、上級生や友達のよいところをまねるなど、心温まる場面が本当に増えました。全校には平館小の自慢になってきたとして伝えました。ますます大きな自慢にしていきたいところです。そんなことが、下記に記す4年生の作文にも書いてありました。

「人の助けになることがうれしい」というところを読んだ時、涙があふれそうになりました。2年生では、学級での活動や保護者のかかわりから人それぞれが違うことを学び、3年生は、学習を通して力を合わせることから達成感を得ることができたとありました。どれも心を打たれることばかりでした。何度読んでも目頭が熱くなります。

2つ目です。それは、「失敗に学ぶ」ということです。子供たちは、学校の楽しさについて、「授業」と「友達」を挙げています。授業では、「どうしたら？」「なぜ？」ということを考え、友達の考えとも比べながら改めて考え直すことを、日々繰り返しています。友達との

1年生の作文より

…ふわっと言葉をいっぱい話せました。みんなではげまし合う1年生になってきました。…〇〇ちゃんとぼくは、ずうっと自学を続けてきました。自学を続けると、自学が楽しくなりました。…



2年生の作文より

…自分の考えをはきはきと発言したので、自分の考えが深まりました。…人には得意、不得意があるんだよ。と教えてくれました。だから、出来ないことがあってもがんばることができました。…



3年生の作文より

…前は、自分から手を挙げられませんでした。それに大きな声を出すこともできませんでした。でも、自分にも言えるような気がして、勇気を出して発表してみました。友達や先生が褒めてくれてますますやる気が出ました。…グループで発表することが多かったのですが、その時に友達と協力することができました。いろいろなことを成功させることができました。…

関係においても、より関係性が上手くいくように振り返りながら生活をしてきました。1年生は、一つのことを続ける中での学びや喜びを書いています。途中で間違ったりやりたくなかったりすることもあったでしょう。しかし、続けてきたからこそその生きた学びがあったことに大きな成長を感じました。5年生は、進んでやってみることで自信を深めたとあります。どちらも自分なりの思いや考えをもってして、そこから工夫していくことが、子供たちにとってこれからの大きな力になることに気付いてくれました。今後もこの部分を大切にしていきたいと考えています。

4年生の作文より

…3学期は漢字テストに一発合格することができました。とてもうれしかったです。そして苦手だった漢字に少し、自信を持てるようになりました。…困っている人がいるときに優しく声をかけるようにしてきました。その人の助けになったときはうれしかったです。

5年生の作文より



…授業中間違っている自分から進んで手を挙げ、いろんな人と話し合うときも自分から進んで発言することが多くなり、自分に自信をもつことができました。…困っている人に話しかけたり、相談に乗ったりしてみんなを元気づけ笑顔にすることができたと思います。…

震災から学ぶ

3.11 追悼集会

元旦のお祝いムードを消し去った能登半島地震が、私たち大人のあの記憶を呼び起こしたのではないのでしょうか。東日本大震災から13年が経過した3月11日、5校時に集会と学級での活動を行いました。集会では、震災当時やその後の宮古市の様子に触れながら、次の2点を話しました。1つ目「自分の命は自分で守る」こと。今年度の避難訓練の際に繰り返し避難の状況に合わせて伝えてきたことです。2つ目「これからも自分たちができること」については、誰かのためにという視点で活動してきたことが、前回お伝えした募金活動が能登地方のために役立つこと、そして、「誰かのために手を使っていること」が私たちの自慢になってきていることを話しました。各学級では、さらに2つの内容について、深めたり、振り返ったりという活動を行いました。今後、災害に立ち向かうべく、知識もさらに学んでいきたいと考えています。

ある日の出来事から

- ◇ ある朝のことです。女の子ですが、息を切らして昇降口に向かっていきます。寒い朝でしたが、頬が紅潮気味に見えました。「もしかして走ってきたの？」と尋ねると「はい！」と一言。もう少し聞いてみると、ずっと向こうから走ってきたということです。その子は、マラソン大会でも頑張っていた子です。「マラソン得意だもんね。さすがだね！」と声をかけました。自分が得意なことをがんばれる姿、素晴らしいですね。
- ◇ 算数の時間でした。コンパスを使って模様を描いていました。ある子が、「なんかうまくいかない。」と一言。見ているとコンパスの針のところがずれてしまうようです。少しだけヒントを出したのですが、前の席の子が、「ここをね…」とすぐに教えてくれました。すると、今度はうまく円が描けました。「上手にできたね。今のやり方だよ。」と言うとにっこり。子ども同士のかかわりで学ぶ姿に、心が温かくなりました。
- ◇ 卒業式の練習の時でした。途中で呼びかけの言葉が出てこず、止まってしまいました。「もう一度〇〇さんからお願いします。」という担任からの一言で再開。再び止まってしまった時のことです。今度は、自主的にひとつ前の言葉からもう一度言い直したのです。すると、次の子が続いて話しました。このことがとても大切なことのように思って子ども達に以下のように伝えました。
「間違えることはあるし、仕方がない。でも、2回目の時に前のことを活かして、自分で正しいと思うことを考えてやってみた。それをみんなで支えた。このことがとても大切なことだと思う。よくできました。」